

「西山の遺跡」思いはせ

諏訪市 博物館 山姥塚古墳など巡る

諏訪市博物館は23日、同市湖南地区の遺跡を中心に巡る「西山の遺跡を歩く」を開いた。諏訪地域の考古学史をまとめた「諏訪史第一巻」刊行100年記念展の関連イベントとして企画。約15人が諏訪史第一巻に掲載されている山姥塚古墳などを巡り、往時の人々の暮らしに思いをはせた。同館学芸員の児玉利一さんが案内した。昭和30年代に崩落があったとされる古墳時代の山姥塚古墳は、崩落前は奥行き約5m、幅約1・5m、高さ2m弱だったといひ「諏訪の古墳としては大きい」と説明した。



諏訪市湖南の山姥塚古墳などを巡る参加者ら

さらに「1921(大正10)年に現場で撮影された写真を中心に盛りだくさんな展示が実現し、本来石積みの周りに盛られている土が見られ

王さんの話を熱心に聞きながら、2時間ほど歩いて遺跡を巡った。西山公園近くの大安寺遺跡は周囲が見渡せる場所であり、現在の中央道諏訪湖サビニア付近まで遺跡が続いていて、など説明を受け、そのスケール感を確認して、

「石積みはよく残っている古墳。ここから何が出土した記録がない」とは不思議と語った。参加者は見

（小尾口有二）